

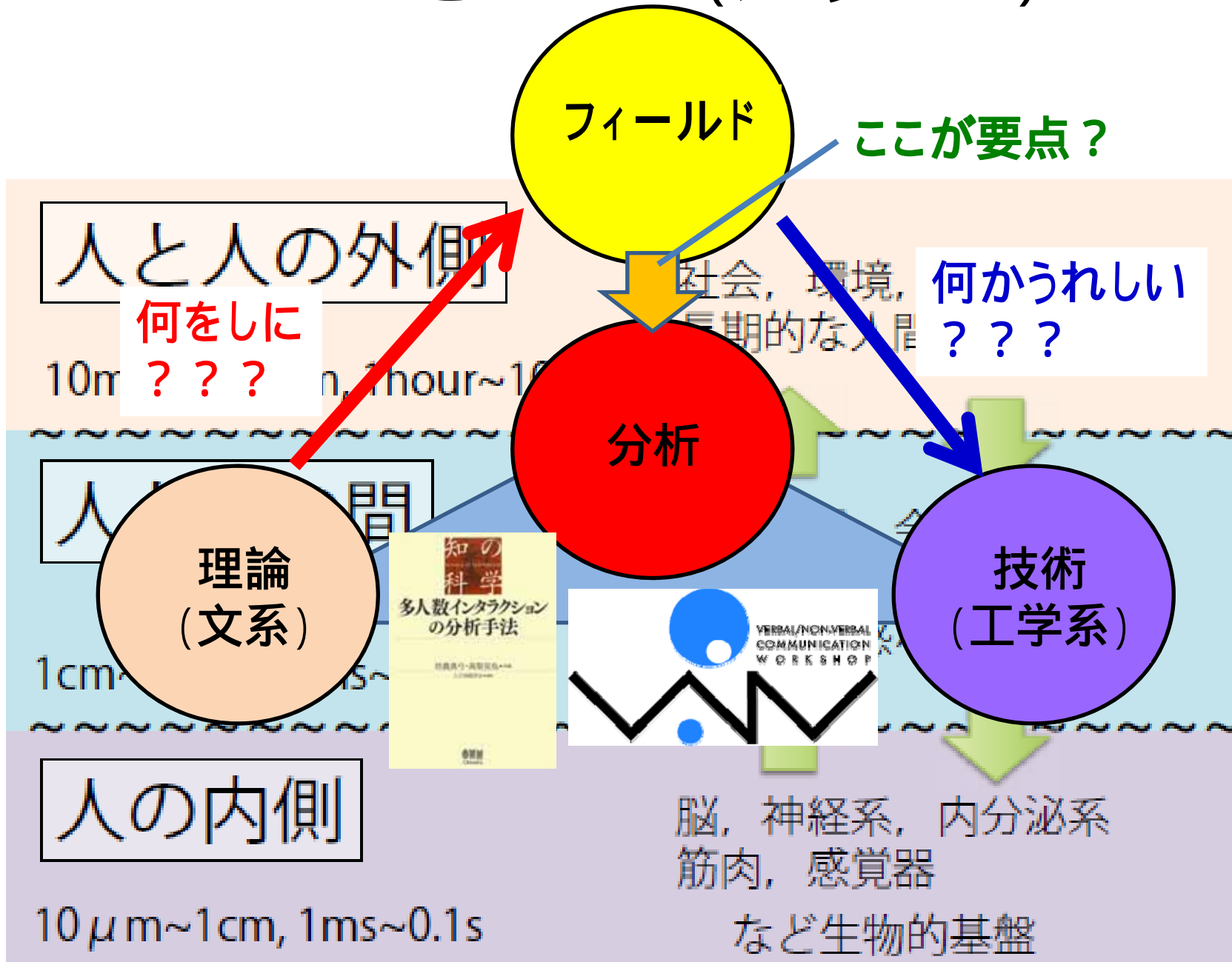
第7回VNV年次大会(2013.3.23)
パネルディスカッション
「工学系自動認識と文科系フィールド調査の距離について考える」

問題提起・司会： 高梨克也(JSTさきがけ / 京都大学)

指定討論者： 岡本雅史(立命館大学)

榎本美香(東京工科大学)

こんな感じかも(違うかも)



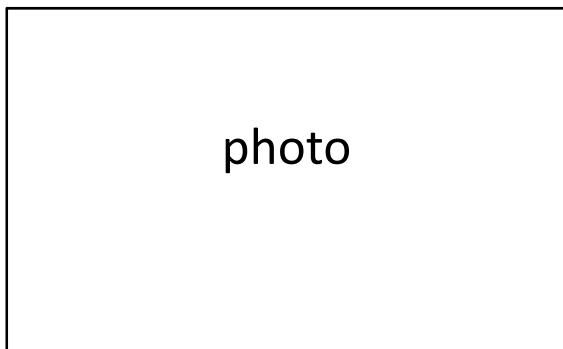
フィールド情報学



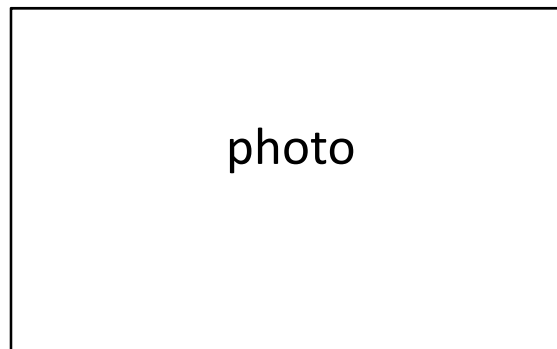
- 京都大学フィールド情報学研究会 (編) (2009)
『フィールド情報学入門 - 自然観察, 社会参加, イノベーションのための情報学 - 』共立出版
- **フィールド**:
 - 分析的, 工学的アプローチが困難で, 統制できず, 多様なものが共存並立し, 予測できない偶発的な出来事が生起し, 常に関与することが求められる場
- **フィールド情報学 field informatics**:
 - フィールドで用いられる起源の異なるさまざまな方法を, 記述, 予測, 設計, 伝達という情報の視点から集約
 - フィールドに内在する情報をそのままのかたちで, 欠落することなく扱おうとする
 - 複雑な連関性を持つ対象を, 単一のまたは統一的なモデルからなるシステムとして説明するのではなく, 種々の価値観, 解釈, 評価によってさまざまな側面をもつものとして捉え, 多元的, 重層的にモデル化する

人はなぜフィールドに行くのか？ - 個人的動機 -

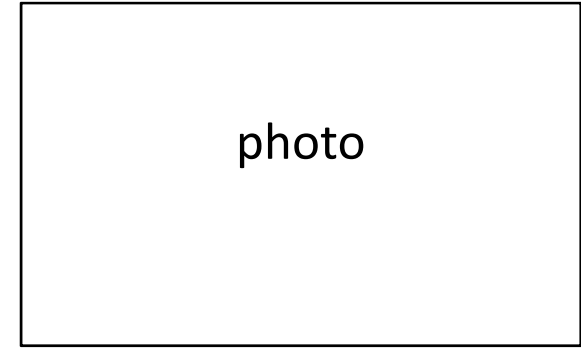
- 「自然に発生」する会話: たとえ収録が行われなかったとしても, その会話は同様に行われるはずのものか?
- 参加者の「リアルな動機」 → 懸念事項「気になるのは」の分析
人工的な「コーパス」
- 日常環境の「自然な複雑さ」 → 関与配分の分析
無菌室のような「実験室」



展示制作ミーティング



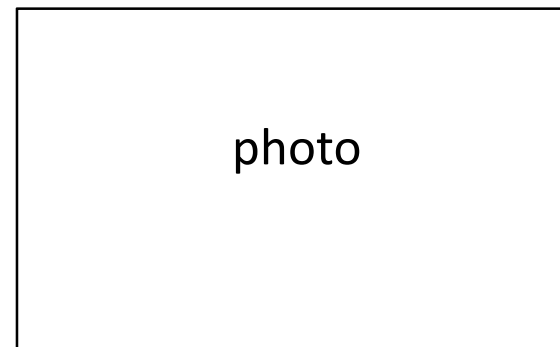
サイエンスカフェ



起業コンサルティング



リエゾン
カンファレンス



科学館
展示説明